

# 誌上学習会 1月号 自宅学習のすすめ 41

みなさま、年末年始はいかがお過ごしでしたか？

新年早々にこのページを見てくださり、ありがとうございます。

今年もどうぞよろしく願いいたします。

12月号掲載の医師の話の動画を解説します。日常会話でよく使用される言葉「あれ」

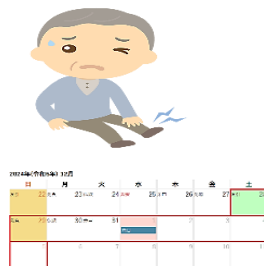
先ず、医師が話す日本語の意味を捉え、そしてろう者に伝わる手話表現を考えましょう。

医師：足の痛みは筋肉の炎症からきていますね。

あまり痛いとあれ(1)ですから注射を打ちましょう。

明日から1週間年末で休みになるので、

その間に痛みが出てあれ(2)ですからね。



私たちは日常の場面で、つい「あれ」という言葉を使いがちです。

言葉が思い出せないために、やむを得ず使用する場合もありますが、はっきりと言うことを避ける、曖昧にぼかすために使用することもあります。話し手は、「そこまで言わなくても、私の言いたいことはわかるでしょう」と思いがちですが、手話の場合、「あれ」では伝わりません。確かに「あれ」は便利な言葉ですが、意味を掴み、適した手話に置き換える必要があります。

この例文は、医師の日本語を手話通訳する場面とします。医師の意図をろう者に伝えるために「あれ」は次のように置き換えてみましょう。

あれ(1)は「生活に支障が出るでしょう」

あれ(2)は「困るでしょう」

「あれ」という単語1つで会話が完結することもあります。身近な人間関係であっても、誤解や行き違いは起こりがちです。その「ずれ」を避けるためにも、「あれ」の使用をぐっとこらえ、言葉で相手に伝えることを心がけたいですね。

置き換える部分を意識して、動画を見てみましょう。

手話のシャドウイングをお勧めします。

会員同士で、動画を一緒に視聴してみるのもお勧めします。

感想や疑問など、ぜひ、事務所までお知らせください。お待ちしております。

☆動画は広通研 HP の【誌上学習会】をご覧ください。